

田辺湾と串本で発見されたカタナメクジウオ (新称)

西 川 輝 昭*

Teruaki NISHIKAWA: A short report on the lancelet *Asymmetron maldivense* from Tanabe Bay and Kushimoto

ナメクジウオ類には、生殖巣の配列を主要なメルクマールのひとつとして、それが体の両側にある *Branchiostoma* と、右側にのみみられる *Asymmetron* との2属が認められている (くわしくは、西川, 1979を参照)。最近、田辺湾と串本から後者の一種 *Asymmetron maldivense* (FORSTER-COOPER, 1903) (和名: カタナメクジウオ—新称) と思われる標本が採集されたので、簡単に報告する。

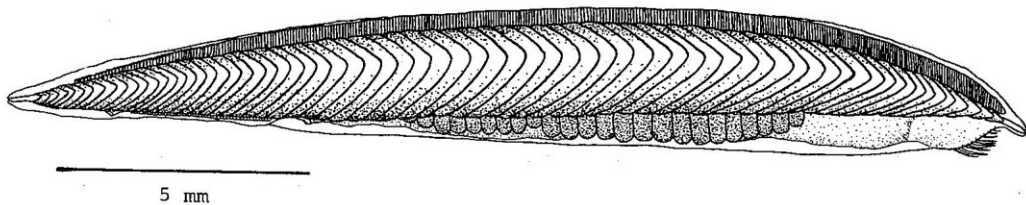
田辺湾産の1個体 (体長 31.2 mm, 抱卵) は、1979年3月26日、白浜町の真鍋豊氏によって、瀬戸番所崎の通称オオグソという磯の南側の深さ約 16 m からドレッジされた。又、串本産の2個体 (体長 20.1 m の雄と、14.7 mm の未成熟個体) は、同年6月25日、鏑浦海中公園センターの方々により、同センターの南方沖 2 km, 深さ 36 m の砂中からドレッジされた。前者の筋節は、生時ごくうすいピンク色であったが、後者のフォルマリン保存標本は、筋節が美しいピンク色で、腸管や中腸盲管中には黄緑色の物質が含まれていた。図は串本産の大個体のスケッチである。本種は、前述した生殖巣の特徴の他、背鰭が体前端ふきんで特に高くなっていることや中腸盲管が短いことなどで *Branchiostoma belcheri* (GRAY,

1847) (和名: ナメクジウオ) と区別される。本種はマルジブ諸島, マダガスカル, ザンジバル, ハワイ・オアフ島から知られ、わが国では最近種子島沖で見つかっている。また先頃、同属の別種 *A. lucayanum* ANDREWS, 1893 (和名: オナガナメクジウオ—新称) が沖縄瀬底島沖で採集され、日本沿岸には少なくとも、以上3種のナメクジウオ類が生息していることが明らかになった (NISHIKAWA, 1979)。

貴重な標本を提供して下さった真鍋豊, 内田絋臣 (鏑浦海中公園センター研究所) 両氏の御好意に心から感謝いたします。

文 献

- 西川輝昭, 1979. 沖縄からはじめて記録されたナメクジウオの一種 *Asymmetron lucayanum* ANDREWS, 1893. Biol. Mag. Okinawa, 17: 15-18.
- NISHIKAWA, T. (in press) Records of two lancelet species, *Asymmetron maldivense* and *A. lucayanum*, from the Western North Pacific. Publ. Seto Mar. Biol. Lab.



* 名古屋大学教養部生物学教室